

**地域の暮らしと福祉に関する調査
(団体等調査)**

報 告 書

**令和4年10月
下関市**

目 次

I	調査の概要	
1	調査目的	1
2	調査方法	1
3	回収結果	1
4	報告書の見方	1
II	調査結果	
1	団体について	2
2	団体の活動について	6
3	他機関・団体との連携について	11
4	「支援を必要とする人」への対応について	18
5	地域の課題について	23
6	団体の今後の活動の展開について	27

I 調査の概要

1 調査目的

社会福祉法第 107 条に規定される市町村地域福祉計画として「第 4 期下関市地域福祉計画・第 4 期下関市地域福祉活動計画」を策定するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査方法

- (1) 調査地域 下関市全域
- (2) 調査方法 郵送法・直接配付
- (3) 調査対象 市内で福祉等の活動を行う団体 557 団体
- (4) 調査時期 令和 4 年 6 月 21 日～7 月 4 日

3 回収結果

有効回収数 366 団体 (65.7%)

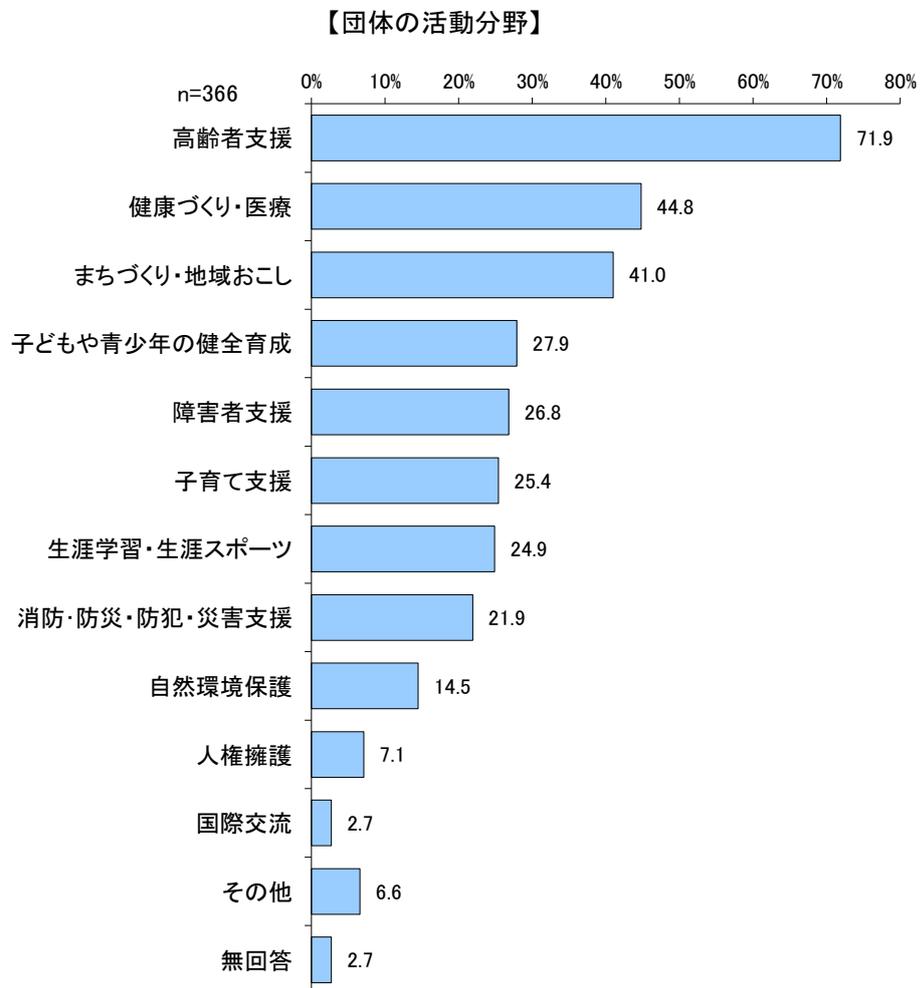
4 報告書の見方

- 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比 (%) で示してある。これらの数値は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が 100.0%とならない場合がある。
- 2 つ以上の回答 (複数回答) を要する質問では、回答比率の合計が 100.0%を超えることがある。
- グラフ中の「n」は質問に対する回答者数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。

Ⅱ 調査結果

1 団体について

問1 貴団体の活動分野は、どのようなものですか。(〇はあてはまるものすべて)



団体の活動分野について、「高齢者支援」と回答した団体の割合が71.9%と最も高く、「健康づくり・医療」(44.8%)、「まちづくり・地域おこし」(41.0%)が続いている。

【団体の活動分野（団体種別）】

	回答数	高齢者支援	健康づくり・医療	まちづくり・地域おこし	子どもや青少年の健全育成	障害者支援	子育て支援	生涯学習・生涯スポーツ
ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ	83	33.7%	16.9%	28.9%	36.1%	39.8%	37.3%	16.9%
ふれあい・いきいきサロン	154	78.6%	46.8%	31.2%	7.1%	11.0%	9.1%	18.8%
地区社協	41	97.6%	53.7%	73.2%	65.9%	48.8%	48.8%	26.8%
まちづくり協議会	10	60.0%	50.0%	100.0%	60.0%	50.0%	40.0%	50.0%
老人クラブ	49	89.8%	75.5%	46.9%	14.3%	8.2%	6.1%	57.1%
民生児童委員協議会	23	100.0%	60.9%	65.2%	91.3%	78.3%	91.3%	17.4%

	回答数	消防・防災・防犯・災害支援	自然環境保護	人権擁護	国際交流	その他	無回答
ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ	83	4.8%	8.4%	4.8%	7.2%	7.2%	1.2%
ふれあい・いきいきサロン	154	14.3%	11.0%	1.9%	0.6%	9.7%	1.3%
地区社協	41	61.0%	29.3%	9.8%	2.4%	2.4%	2.4%
まちづくり協議会	10	60.0%	40.0%	30.0%	10.0%	-	-
老人クラブ	49	24.5%	22.4%	4.1%	-	2.0%	2.0%
民生児童委員協議会	23	47.8%	8.7%	43.5%	4.3%	4.3%	-

団体種別にみると、ボランティア団体・障害者団体・母親クラブでは、「高齢者支援」、「子どもや青少年の健全育成」、「障害者支援」、「子育て支援」がいずれも3割台となっている。

ふれあい・いきいきサロンでは、「高齢者支援」が78.6%、「健康づくり・医療」が46.8%で上位となっている。

地区社協では、「高齢者支援」が97.6%、「まちづくり・地域おこし」が73.2%、「子どもや青少年の健全育成」が65.9%で上位となっている。

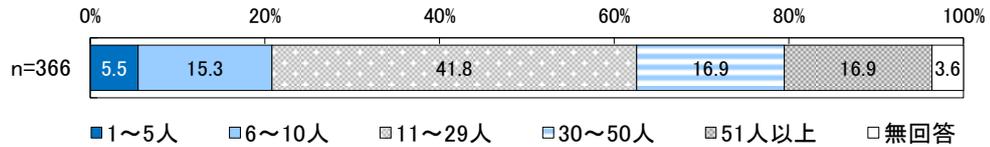
まちづくり協議会では、「まちづくり・地域おこし」が100.0%、「高齢者支援」、「子どもや青少年の健全育成」、「消防・防災・防犯・災害支援」がいずれも60.0%で上位となっている。

老人クラブでは、「高齢者支援」が89.8%、「健康づくり・医療」が75.5%で上位となっている。

民生児童委員協議会では、「高齢者支援」が100.0%、「子どもや青少年の健全育成」、「子育て支援」がともに91.3%、「障害者支援」が78.3%で上位となっている。

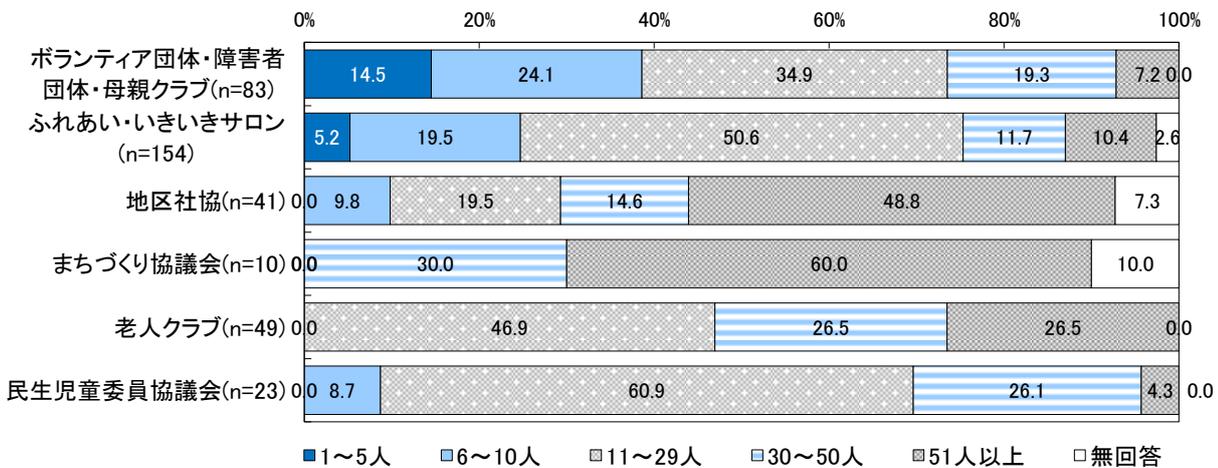
問3 貴団体の規模（構成員数）と構成員のおおよその平均年齢をお答えください。

【規模（構成員数）】



構成員数は、「11~29人」と回答した団体の割合が41.8%、「30~50人」、「51人以上」と回答した団体の割合が16.9%となっている。

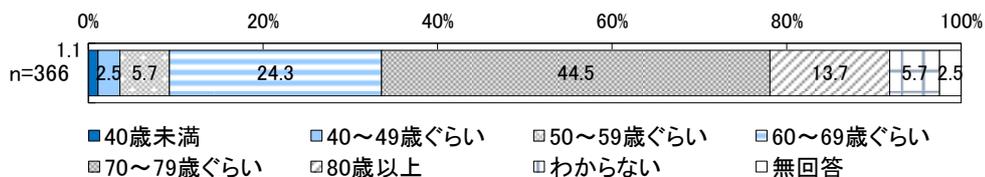
【規模（構成員数）（団体種別）】



団体種別にみると、ボランティア団体・障害者団体・母親クラブでは、「10人以下」と回答した団体の割合が4割に近くなっている。

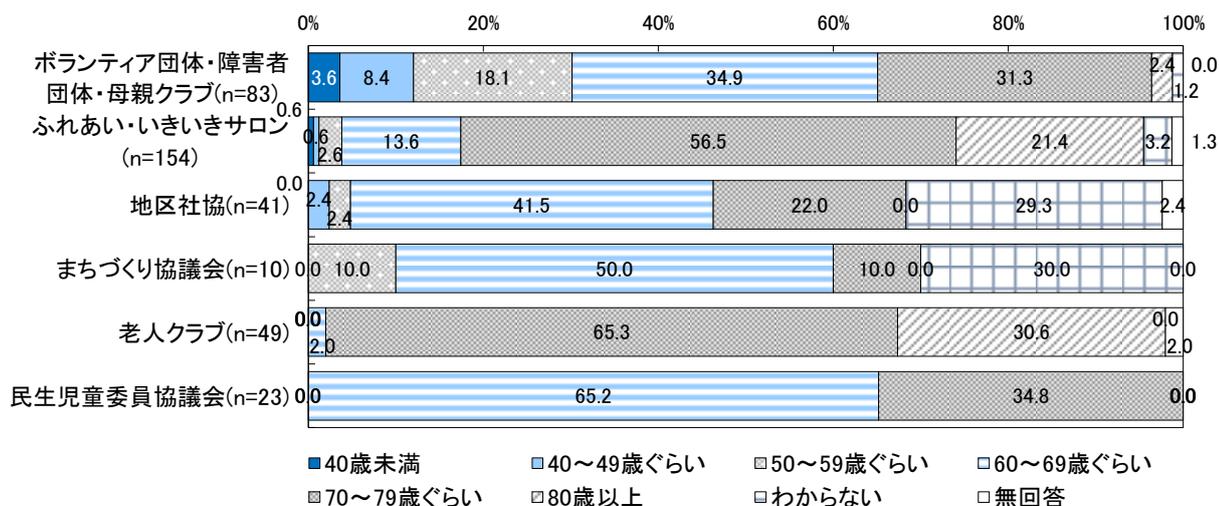
「51人以上」と回答した割合は、地区社協で48.8%、まちづくり協議会で60.0%となっている。

【構成員の平均年齢】



構成員の平均年齢について、「60～69 歳ぐらい」と回答した団体の割合が 24.3%、「70～79 歳ぐらい」と回答した団体の割合が 44.5%となっている。

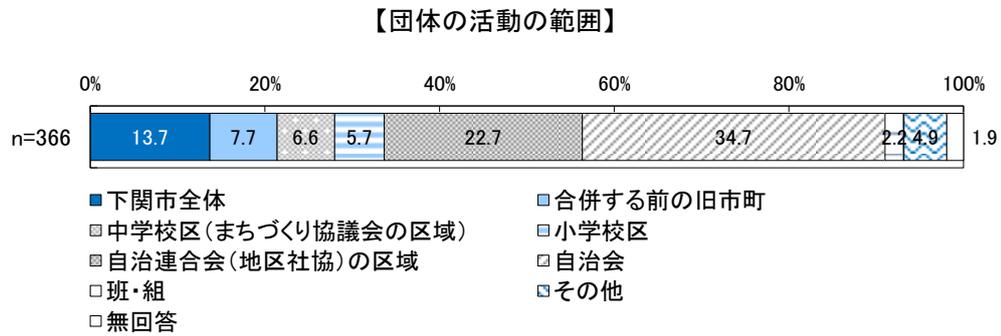
【構成員の平均年齢（団体種別）】



団体種別にみると、60歳未満の団体の割合は、ボランティア団体・障害者団体・母親クラブで30.1%となっているが、ふれあい・いきいきサロン、地区社協、まちづくり協議会では10%以下、老人クラブ、民生児童委員協議会では0.0%となっている。

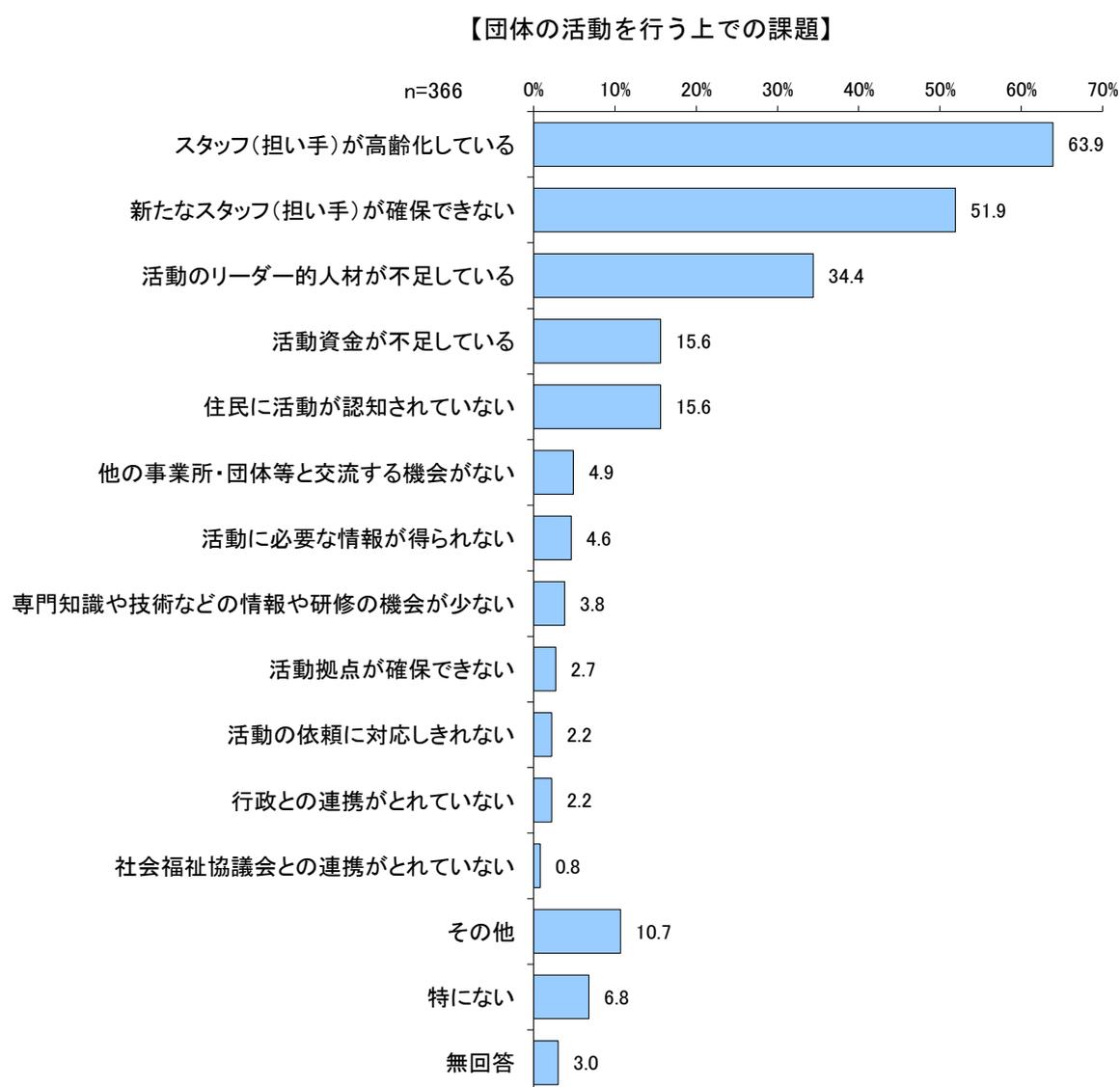
2 団体の活動について

問4 貴団体の活動の範囲は、概ねどの程度ですか。(○は1つ)



団体の活動の範囲について、「自治連合会(地区社協)の区域」と回答した団体の割合が22.7%、「自治会」(34.7%)となっている。

問5 貴団体の活動を行う上での課題は何ですか。(〇は3つまで)



団体の活動を行う上での課題について、「スタッフ（担い手）が高齢化している」と回答した団体の割合が63.9%と最も高く、「新たなスタッフ（担い手）が確保できない」（51.9%）、「活動のリーダー的人材が不足している」（34.4%）が続いている。

【団体の活動を行う上での課題（団体種別）】

	回答数	スタッフ（担い手）が高齢化している	新たなスタッフ（担い手）が確保できない	活動のリーダー的人材が不足している	活動資金が不足している	住民に活動が認知されていない	他の事業所・団体等と交流する機会がない	活動に必要な情報が得られない	専門知識や技術などの情報や研修の機会が少ない
ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ	83	61.4%	57.8%	22.9%	18.1%	13.3%	4.8%	6.0%	1.2%
ふれあい・いきいきサロン	154	60.4%	37.7%	29.2%	16.2%	9.7%	3.2%	5.2%	1.3%
地区社協	41	73.2%	61.0%	48.8%	17.1%	24.4%	-	-	4.9%
まちづくり協議会	10	70.0%	60.0%	70.0%	30.0%	40.0%	-	-	-
老人クラブ	49	69.4%	65.3%	57.1%	12.2%	22.4%	10.2%	2.0%	8.2%
民生児童委員協議会	23	69.6%	73.9%	21.7%	-	26.1%	13.0%	13.0%	17.4%

	回答数	活動拠点が確保できない	活動の依頼に対応しきれない	行政との連携がとれていない	社会福祉協議会との連携がとれていない	その他	特になし	無回答
ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ	83	2.4%	1.2%	4.8%	-	10.8%	9.6%	1.2%
ふれあい・いきいきサロン	154	3.2%	2.6%	1.3%	1.3%	14.9%	9.1%	5.2%
地区社協	41	7.3%	2.4%	-	-	4.9%	-	2.4%
まちづくり協議会	10	-	-	-	-	-	-	-
老人クラブ	49	-	2.0%	-	2.0%	6.1%	4.1%	2.0%
民生児童委員協議会	23	-	4.3%	-	-	4.3%	4.3%	-

団体種別にみると、いずれの団体においても「スタッフ（担い手）が高齢化している」と回答した団体の割合が6割以上となっている。また、「新たなスタッフ（担い手）が確保できない」と回答した団体の割合についても、ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ、ふれあい・いきいきサロンを除いて6割以上となっている。

まちづくり協議会では、「活動のリーダー的人材が不足している」と回答した団体の割合が70.0%となっており、「スタッフ（担い手）が高齢化している」と同率で最も高くなっている。

問5-1 課題を解決するために取り組んでいること、または、取り組みたいことがあれば具体的に記入してください。

～主な回答～

《ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ》

- 他のボランティアグループとの交流により情報交換をしている。
- 地域の方々に知ってもらうため、地域のまつり等にブースを置かせてもらい、体験してもらっている。
- 毎年ボランティア養成講座を開催している。
- 地域の理解や認知度を高めるために、地域食堂の開催やパンフレットを作成し、町内の公共施設に置いている。
- 若手に情報提供の場を作る。

《ふれあい・いきいきサロン》

- 公民館等に活動を連絡し、公報活動を実施している。
- 保健推進委員と連携し、町内の子ども達との交流をしている。
- 家族、民生委員さんにも送迎を依頼している。
- リーダー的人材が移住してくる対策を何か考えたい。
- 活動資金について、2ヵ月に1度の割合で資源ゴミ回収を実施している。

《地区社協》

- 保護者世代（子ども会、中学部保護者）を自治会活動に引き入れ、将来のスタッフづくりを続けている。
- 自治連合会で、情報交換を行う。
- 積極的に声かけを行う。
- 活動を広報し、参加者の輪を広げながらスタッフ等を探していく。
- 課題を解決するためには、現在行っている「小地域福祉推進会議」を充実していく。
- 社会福祉協議会との連携

《まちづくり協議会》

- 今活動しているPTA役員に働きかけ、参加してもらうように依頼している。
- 人材育成と地域の交流を深める努力をしている。
- LINEやSNSを利用し、広く若い人にPRしている。
- 活動に関心をもってもらうよう、各地区、各団体に協力、応援の働きかけを行っている。
- 活動資金について、明瞭な予算を立て、ムダなく使う。

《老人クラブ》

- 年配の方が多いため、一歩でも家から集会所に集まってもらえる企画を増やす。
- 町内の活動が増えれば、人材を見つけ、育てることができる。
- 下関市老人クラブ連合会が主催する行事にできるだけ参加するようにする。

《民生児童委員協議会》

- 民生児童委員の活動をもっと市民の方に知ってほしい。
- 各自治会、小中学校、幼稚園、保育園等と連携を組み、活動にあたっていきたい。
- 日常活動を通して、人材の掘り起こしをしている。
- 地区によって、問題点に違いがあるので、自治会長とうまく連携がとれていることが必要である。

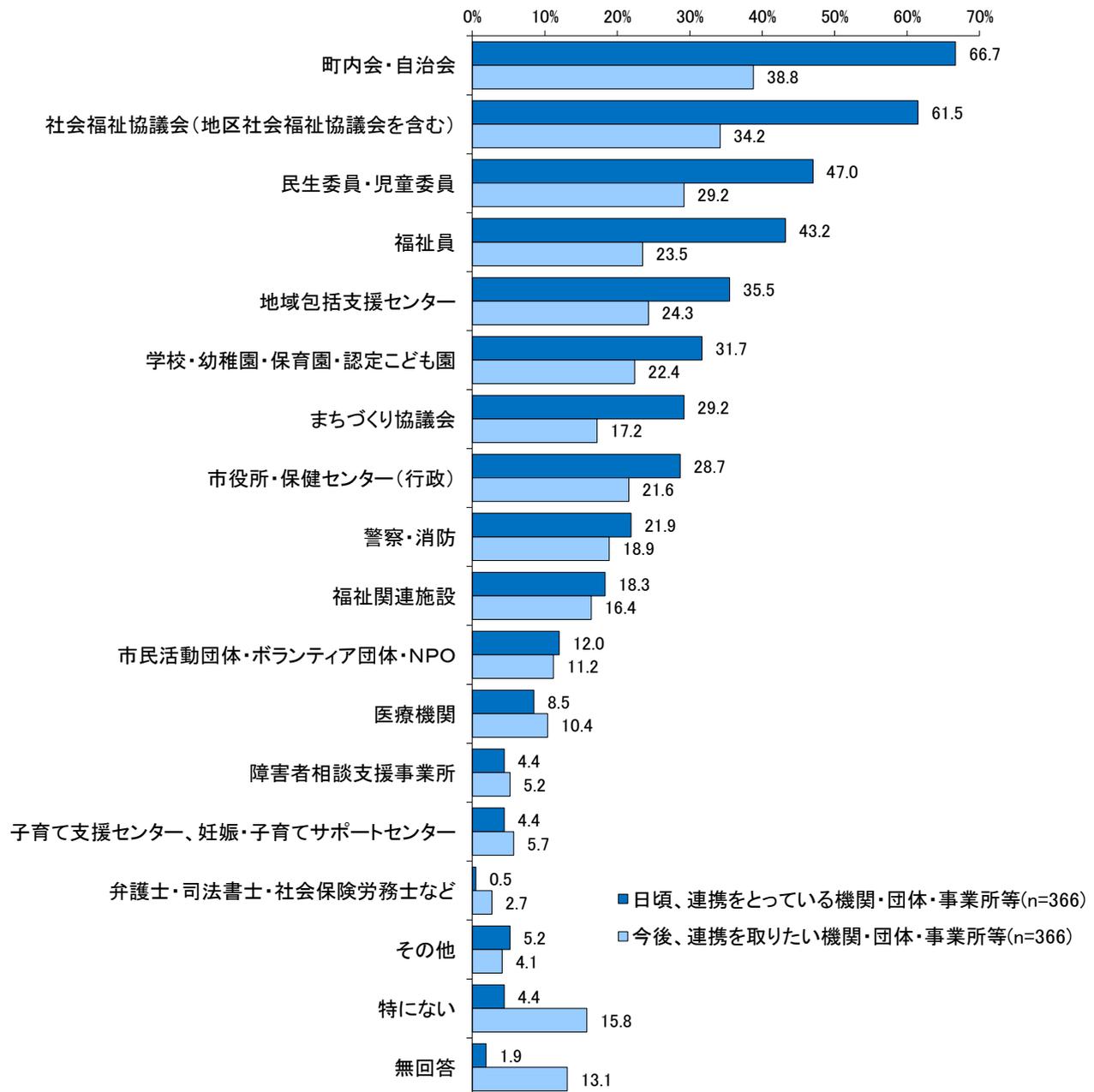
3 他機関・団体との連携について

問6 貴団体では、日頃からどのような機関・団体・事業所等と連携をとっていますか。

問7 貴団体では、今後、どのような機関・団体・事業所等と連携をとりたいですか。

(○はあてはまるものすべて)

【連携をとっている、連携をとりたい機関・団体・事業所等】



連携をとっている機関・団体・事業所等について、「町内会・自治会」と回答した団体の割合が66.7%と最も高く、次いで「社会福祉協議会(地区社会福祉協議会を含む)」(61.5%)となっている。

連携をとりたい機関・団体・事業所等について、「町内会・自治会」と回答した団体の割合が38.8%と最も高く、「社会福祉協議会(地区社会福祉協議会を含む)」(34.2%)、「民生委員・児童委員」(29.2%)が続いている。

【連携をとっている機関・団体・事業所等（団体種別）】

	回答数	町内会・自治会	社会福祉協議会（地区社会福祉協議会を含む）	民生委員・児童委員	福祉員	地域包括支援センター	学校・幼稚園・保育園・認定こども園	まちづくり協議会	市役所・保健センター（行政）	警察・消防
ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ	83	20.5%	61.4%	14.5%	12.0%	8.4%	33.7%	19.3%	24.1%	8.4%
ふれあい・いきいきサロン	154	73.4%	59.1%	48.1%	50.6%	33.8%	8.4%	15.6%	22.1%	17.5%
地区社協	41	95.1%	73.2%	95.1%	78.0%	56.1%	56.1%	70.7%	46.3%	34.1%
まちづくり協議会	10	80.0%	40.0%	60.0%	40.0%	50.0%	70.0%	20.0%	70.0%	60.0%
老人クラブ	49	87.8%	46.9%	44.9%	38.8%	36.7%	46.9%	34.7%	22.4%	28.6%
民生児童委員協議会	23	82.6%	95.7%	69.6%	56.5%	100.0%	87.0%	73.9%	56.5%	43.5%

	回答数	福祉関連施設	市民活動団体・ボランティア団体・NPO	医療機関	障害者相談支援事業所	子育て支援センター、妊娠・子育てサポートセンター	弁護士・司法書士・社会保険労務士など	その他	特になし	無回答
ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ	83	27.7%	25.3%	16.9%	10.8%	10.8%	1.2%	9.6%	9.6%	1.2%
ふれあい・いきいきサロン	154	9.7%	4.5%	3.9%	-	-	-	3.9%	3.9%	2.6%
地区社協	41	22.0%	17.1%	9.8%	2.4%	2.4%	2.4%	-	-	-
まちづくり協議会	10	30.0%	20.0%	20.0%	20.0%	10.0%	-	20.0%	-	10.0%
老人クラブ	49	12.2%	8.2%	2.0%	2.0%	-	-	4.1%	4.1%	2.0%
民生児童委員協議会	23	43.5%	13.0%	17.4%	8.7%	21.7%	-	4.3%	-	-

連携をとっている機関・団体・事業所等を団体種別にみると、ボランティア団体・障害者団体・母親クラブでは、「社会福祉協議会（地区社会福祉協議会を含む）」が61.4%で上位となっている。

ふれあい・いきいきサロンでは、「町内会・自治会」が73.4%で上位となっている。

地区社協では、「町内会・自治会」、「民生委員・児童委員」がともに95.1%で上位となっている。

まちづくり協議会では、「町内会・自治会」が80.0%、「学校・幼稚園・保育園・認定こども園」、「市役所・保健センター（行政）」がともに70.0%で上位となっている。

老人クラブでは、「町内会・自治会」が87.8%で上位となっている。

民生児童委員協議会では、「地域包括支援センター」が100.0%、「社会福祉協議会（地区社会福祉協議会を含む）」が95.7%で上位となっている。

【連携をとりたい機関・団体・事業所等（団体種別）】

	回答数	町内会・自治会	社会福祉協議会（地区社会福祉協議会を含む）	民生委員・児童委員	地域包括支援センター	福祉員	学校・幼稚園・保育園・認定こども園	市役所・保健センター（行政）	警察・消防	まちづくり協議会
ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ	83	16.9%	31.3%	15.7%	8.4%	4.8%	30.1%	18.1%	7.2%	16.9%
ふれあい・いきいきサロン	154	42.2%	35.1%	31.2%	26.6%	27.3%	10.4%	20.8%	16.2%	8.4%
地区社協	41	36.6%	34.1%	43.9%	29.3%	36.6%	24.4%	19.5%	26.8%	31.7%
まちづくり協議会	10	80.0%	50.0%	40.0%	60.0%	30.0%	70.0%	60.0%	60.0%	20.0%
老人クラブ	49	46.9%	26.5%	28.6%	18.4%	18.4%	24.5%	22.4%	20.4%	20.4%
民生児童委員協議会	23	60.9%	47.8%	39.1%	56.5%	52.2%	47.8%	26.1%	43.5%	43.5%

	回答数	福祉関連施設	市民活動団体・ボランティア団体・NPO	医療機関	子育て支援センター、妊娠・子育てサポートセンター	障害者相談支援事業所	弁護士・司法書士・社会保険労務士など	その他	特になし	無回答
ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ	83	14.5%	16.9%	9.6%	9.6%	8.4%	2.4%	6.0%	19.3%	10.8%
ふれあい・いきいきサロン	154	11.7%	5.8%	5.8%	0.6%	1.3%	1.9%	3.9%	17.5%	14.9%
地区社協	41	19.5%	17.1%	9.8%	12.2%	4.9%	4.9%	2.4%	9.8%	19.5%
まちづくり協議会	10	40.0%	40.0%	30.0%	20.0%	10.0%	10.0%	20.0%	-	20.0%
老人クラブ	49	14.3%	6.1%	18.4%	-	-	2.0%	-	14.3%	12.2%
民生児童委員協議会	23	43.5%	13.0%	21.7%	21.7%	26.1%	4.3%	4.3%	13.0%	-

連携をとりたい機関・団体・事業所等を団体種別にみると、ボランティア団体・障害者団体・母親クラブでは、「社会福祉協議会（地区社会福祉協議会を含む）」が31.3%、「学校・幼稚園・保育園・認定こども園」が30.1%で上位となっている。

ふれあい・いきいきサロンでは、「町内会・自治会」が42.2%、「社会福祉協議会（地区社会福祉協議会を含む）」が35.1%、「民生委員・児童委員」が31.2%で上位となっている。

地区社協では、「民生委員・児童委員」が43.9%、「町内会・自治会」、「福祉員」がともに36.6%、「社会福祉協議会（地区社会福祉協議会を含む）」が34.1%で上位となっている。

まちづくり協議会では、「町内会・自治会」が80.0%、「学校・幼稚園・保育園・認定こども園」が70.0%で上位となっている。

老人クラブでは、「町内会・自治会」が46.9%で上位となっている。

民生児童委員協議会では、「町内会・自治会」が60.9%、「地域包括支援センター」が56.5%、「福祉員」が52.2%で上位となっている。

問6-1 どのように連携をとっているか、具体的に記入してください。

～主な回答～

《ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ》

- 公民館、子育て支援センターへチラシ冊子等の配布
- 合同研修会、講座の開催
- サポーター養成講座の手伝い等、電話相談の内容によって専門職の方を紹介している。
- 定期訪問し、情報交換や健康教室、出前授業の案内等を行っている。
- 子育て支援センターの会員登録をし、可能なところはサポートの手伝い（会員個々に登録）をする。

《ふれあい・いきいきサロン》

- 相談事等があれば関係機関に電話連絡をとり、場合によっては訪問をして問題解決にあたっている。
- 福祉活動（自治会行事等）に参加・協力してもらっている。
- 定期・不定期に大規模、小規模の研修会が行われ、当サロンの活動においても講話、健康体操等に講師として呼んでいる。
- 自治会の民生委員・福祉委員と話し合い、自宅に閉じこもっている人等の情報を共有して参加に導く。
- 敬老会及び自治会等のイベント参加

《地区社協》

- 外部団体からの参加要請には、積極的に役員を派遣し、情報の収集に努め、役員会等で報告を行っている。
- ゆ〜あい訪問（一人暮らし）を民生委員、警察署員と訪問し、困り事や詐欺等の防止を呼びかけている。
- 情報交換
- 各自治会と定期的に会合を持っている。
- 活動や事業の開催への支援、協力、相談等
- 自治定例会に不定期に参加して社協行事への参加を要請したり、研修会や講話を共催してもらっている。
- まちづくり協議会と「認知症講座」を共催している。

《まちづくり協議会》

- イベント等の協力要請
- イベントや行事の共催、協力等を相互に行っている。
- 部会ごとに事業を推進していくために、指導・助言をもらうように心がけている。
- 活動内容によって関係機関と協力して事業を行っている。
- 運営委員会の出席の依頼や各種行事へのお互いの支援

《老人クラブ》

- 自治会長と密に連絡調整し、町内の問題点等連絡相談報告を行っている。
- 地域包括支援センターや市長寿支援課と連携を密にし、指導もいただいている。
- イベントや研修会の講師の依頼
- 福祉員、民生委員、児童委員、保健推進委員等からの情報収集・共有化をベースにして活動している。
- 全ての活動に関して、参加と協力が必要であり、まちづくり協議会や自治連合会、社会福祉協議会に依頼しての「広報活動」をポイントにしている。

《民生児童委員協議会》

- 自治会長との町内での情報交換
- 各団体主催行事への参加
- サロンで福祉員、長寿会、参加者との交流を行い、民生委員も当番制で参加している。
- それぞれの機関、団体と関連があり、連絡をとりあっている。
- 児童委員が園、学校を訪問し、連携をとっている。
- 月1回の定例会で民生委員同士の意見交換を行う。

問7-1 どのように連携をとりたいか、具体的に記入してください。

～主な回答～

《ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ》

- 事業を通じて連携協働
- いろいろなイベント等の実施
- 社協の出張ボランティアの活用
- ワークショップを開催できる講師が会員にそろっているので、小学校等で講座を開催する等の機会がほしい。

《ふれあい・いきいきサロン》

- 地域住民の要望にそった講習会等を開くため、各種関係機関あてに連絡を取り、生活に身近な問題を選んで依頼していきたい。
- 自治会としてコミュニティの強化を図るよう、サロンの中で行事をする機会を増やしたい。
- 自治会長、民生委員と相談し、活動を進めて行きたい。
- 老人施設等から講師に来ていただき、認知症防止のための体操や頭の体操等を教えてもらいたい。
- 過疎、高齢化が進んでいるので、情報提供や気を付けること等を知らせてほしい。

《地区社協》

- 市民活動団体・ボランティア団体・NPO は、構成団体に加入していただき、ともに地域福祉課題を共有し、活動を進める。
- 活動に必要な情報がほしい。
- 人材育成、特にリーダーを養成するため、可能な限り様々な団体とスクラムを組みたい。
- まずは、お互いの機関、団体、事業所等を知り合う場（情報交換）があり、その上で、できる活動は合同で行う。

《まちづくり協議会》

- 行事等を通し、熟議し連携をとる。
- 新しいメディアを利用し、情報を交換する。
- 参加者確保のため、他団体にも参加をお願いしたい。
- 指導、助言、資料提供等
- 具体的活動事業への協力、支援、共働、共催

《老人クラブ》

- 福祉施設や医療機関についての情報や、市役所の老人会等への取り組みについて情報がほしい。
- 健康増進に関わる、研修、出前講座等を受けたいと思う。
- 自治会との連携を取り、町内美化に努めたい。
- 協力、支援できる内容を協議したい。

- 今まで通り、福祉員、民生委員・児童委員、保健推進委員からの情報をベースに共有化を図り、1チームとして活動を進めていきたい。

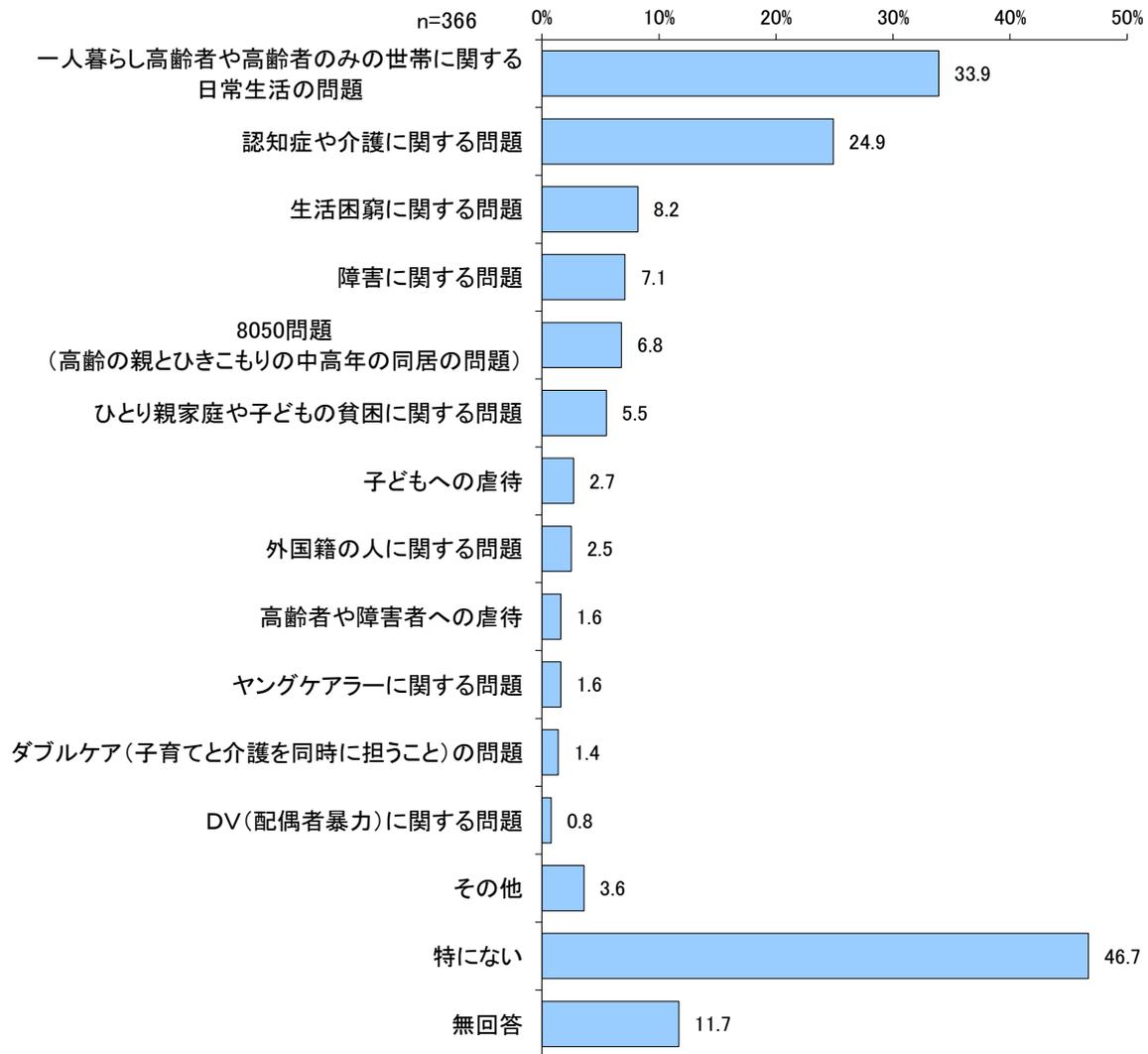
《民生児童委員協議会》

- 各種団体の会に参加し、情報、意見交換をする。
- 子育てで悩んだり心配したりしている方をサポートできるように学んだり、一緒に行事で取り組めないか検討していきたい。
- 地域密着型の専門的団体と協力的な関係を構築していきたい。
- 自治会、福祉関連施設と連携したい。
- 災害時の避難訓練

4 「支援を必要とする人」への対応について

問8 直近の1年間に、貴団体の活動において「支援を必要とする人」本人や周囲の人から次の項目に関する相談を受けたことがありましたか。(〇はあてはまるものすべて)

【「支援を必要とする人」本人や周囲の人から相談を受けた項目】

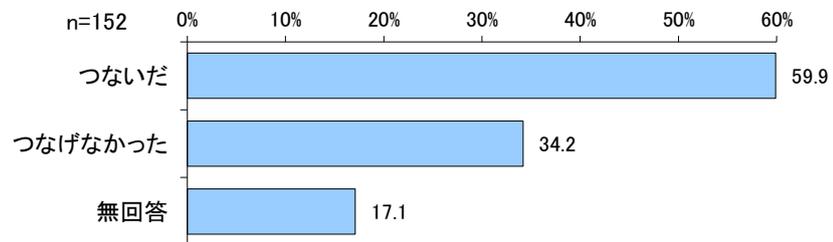


「支援を必要とする人」本人や周囲の人から相談を受けた項目について、「一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯に関する日常生活の問題」と回答した団体の割合が33.9%と最も高く、次いで「認知症や介護に関する問題」(24.9%)となっている。

問8で「1」～「13」と回答した団体のみ回答

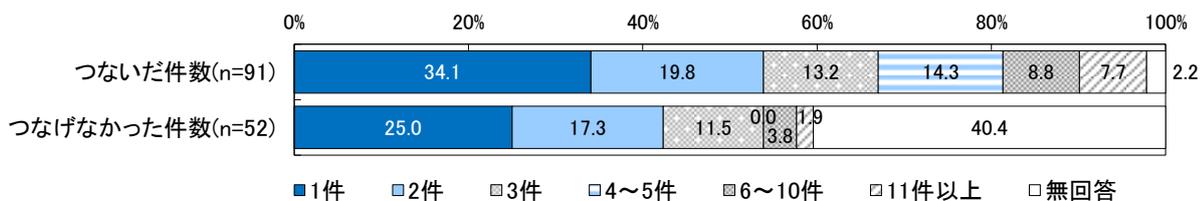
問8-1 「支援を必要とする人」を行政や社会福祉協議会等の相談や支援につなぎましたか。また、その件数を回答してください。(〇はあてはまるものすべて)

【「支援を必要とする人」を行政等の相談や支援につなげたか】



「支援を必要とする人」を行政等の相談や支援につなげたかについて、「つないだ」と回答した団体の割合が 59.9%、「つなげなかった」と回答した団体の割合が 34.2%となっている。

【「支援を必要とする人」を行政等の相談や支援につないだ件数・つなげなかった件数】

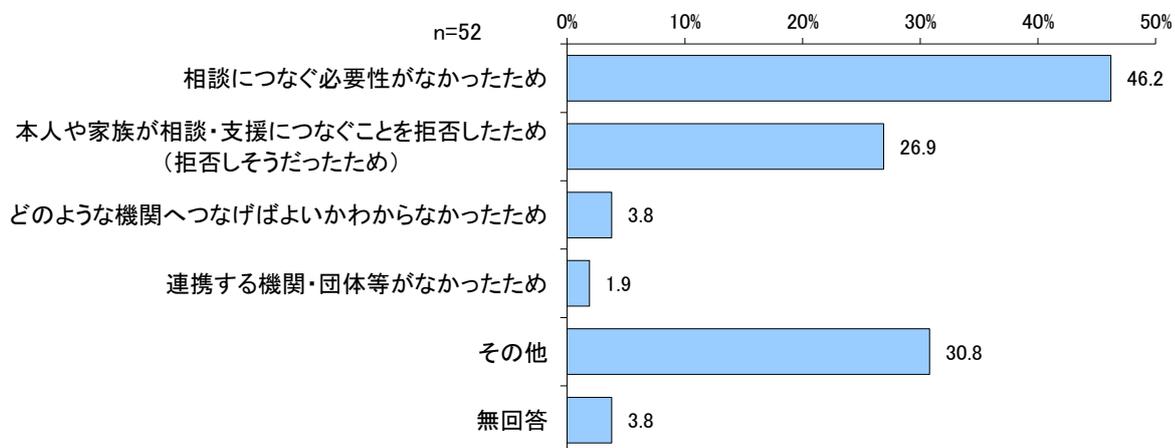


「支援を必要とする人」を行政等の相談や支援につないだ件数が「3件以上」と回答した団体の割合は 44.0%、つなげなかった件数が「3件以上」と回答した団体の割合は 17.2%となっている。

問8-1で「2 つなげなかった」と回答した団体のみ回答

問8-2 つなげなかったのはどのような理由ですか。(〇はあてはまるものすべて)

【「支援を必要とする人」を行政等の相談や支援につなげなかった理由】



「支援を必要とする人」を行政等の相談や支援につなげなかった理由について、「相談につなぐ必要性がなかったため」と回答した団体の割合が46.2%と最も高く、次いで「本人や家族が相談・支援につなぐことを拒否したため（拒否しそうだったため）」(26.9%)となっている。

問8を回答したすべての団体が回答

問8-3 関係者の間でつなぎやすくなる仕組みについて、アイデアがあれば記入してください。

～主な回答～

《ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ》

- 民生委員のような役割の人を増やし、問題がある家庭の状況把握を行い、迅速に対応する。
- 地域との連携
- 家族の人達との交流を持つ。
- お互いを知ること、関係機関のネットワークづくり
- 団体、構成員の研修参加
- 相談、関係機関の細かい情報誌があれば見つけやすい。

《ふれあい・いきいきサロン》

- 関係機関の人との連携が大切で、お互いが知り合える間柄になることが必要であり、その仲介役となる民生委員や福祉員等が活動しやすい自治会にしたい。
- こういうことで困ったらここへ相談したらよいというパンフレットを行政で作成し、全戸配布の上、各自治会に徹底する。
- 相談場所の大型ポスターを作成し、各集会所に貼って活用する。
- 一人暮らし高齢者は孤独で引きこもりがちの人が多いため、周辺の元気な人が定期的に訪問し会話をを行う。
- 知り合いや隣近所の人が口コミで誘うことが一番である。
- 町内の役員との連絡体制
- 見守り活動の関係者が定期的に現状を発表し合う機会を持つ。

《地区社協》

- 定期的に会合を持って、情報交換を行うことが必要である。
- 他団体との交流会を開催し、情報の共有を図れたらよいと思う。
- 社会福祉協議会、包括支援センター、自治会の会合にはそれぞれ参加してもらおう等、常日頃から連携、コミュニケーションをとることが大切である。
- 定例的な理事会を開催し、情報交換、情報の共有化を行う必要性を感じた。

《まちづくり協議会》

- 各種団体の交流を持ち、連絡が取りやすくする。
- 行政の縦割り解消（職員部門の積極的傾聴の姿勢）
- プロジェクト制の導入（各団体含む）

《老人クラブ》

- 個人的に立ち入るのは困難な場合が多いと思うので、近くの民生委員に相談する。
- 情報交換が絶えないように心がけている。
- 福祉員、民生委員・児童委員、保健推進委員と常に情報交換し、日頃と異なるささいなことでもすみやかに取り上げ、全員共有化の上、迅速に対応するよう努める。

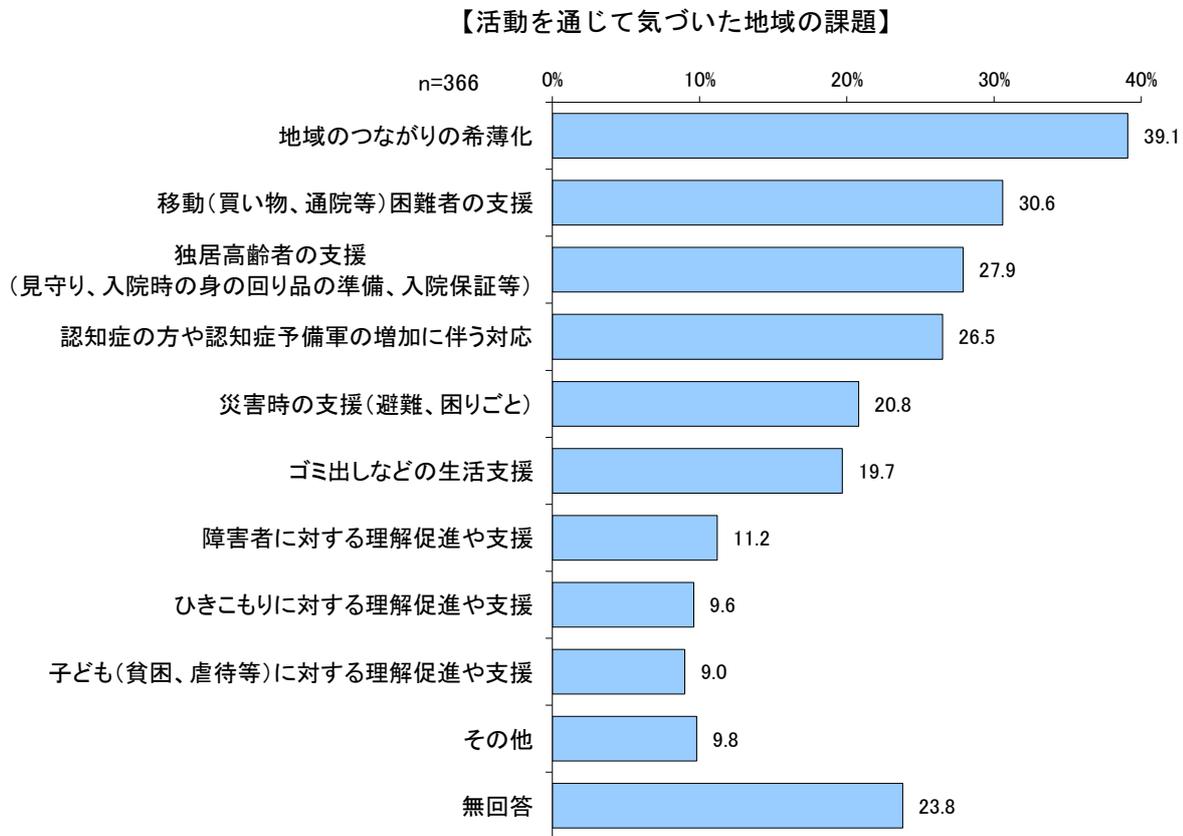
《民生児童委員協議会》

- 常日頃より「社会福祉協議会本部」と接触を持つことがポイントである。
- 地域包括支援センターについてよく説明し、情報として高齢者に伝える。
- 常に小さなことでも情報を交換しておく。
- 担当民生児童委員だけでなく、会長を初めとする全民生児童委員の問題課題として討議、検討する。

5 地域の課題について

問9 貴団体が活動を通じて感じたり、気づいたりした地域の課題は何ですか。

(〇はあてはまるものすべて)



活動を通じて気づいた地域の課題について、「地域のつながりの希薄化」と回答した団体の割合が39.1%と最も高く、「移動(買い物、通院等)困難者の支援」(30.6%)、「独居高齢者の支援(見守り、入院時の身の回り品の準備、入院保証等)」(27.9%)、「認知症の方や認知症予備軍の増加に伴う対応」(26.5%)が続いている。

【活動を通じて気づいた地域の課題（団体種別）】

	回答数	地域のつながりの希薄化	移動(買い物、通院等)困難者の支援	独居高齢者の支援(見守り、入院時の身の回り品の準備、入院保証等)	認知症の方や認知症予備軍の増加に伴う対応	災害時の支援(避難、困りごと)	ゴミ出しなどの生活支援
ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ	83	33.7%	19.3%	16.9%	12.0%	14.5%	10.8%
ふれあい・いきいきサロン	154	33.1%	27.9%	26.0%	26.6%	19.5%	17.5%
地区社協	41	51.2%	51.2%	41.5%	29.3%	26.8%	36.6%
まちづくり協議会	10	70.0%	50.0%	40.0%	30.0%	50.0%	40.0%
老人クラブ	49	44.9%	34.7%	32.7%	34.7%	24.5%	18.4%
民生児童委員協議会	23	60.9%	43.5%	47.8%	60.9%	26.1%	34.8%

	回答数	障害者に対する理解促進や支援	ひきこもりに対する理解促進や支援	子ども(貧困、虐待等)に対する理解促進や支援	その他	無回答
ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ	83	26.5%	15.7%	22.9%	12.0%	25.3%
ふれあい・いきいきサロン	154	3.9%	6.5%	1.3%	8.4%	26.6%
地区社協	41	4.9%	9.8%	12.2%	7.3%	17.1%
まちづくり協議会	10	10.0%	-	20.0%	-	20.0%
老人クラブ	49	10.2%	8.2%	6.1%	12.2%	18.4%
民生児童委員協議会	23	21.7%	17.4%	8.7%	17.4%	4.3%

団体種別にみると、ボランティア団体・障害者団体・母親クラブでは、「地域のつながりの希薄化」が33.7%で上位となっている。

ふれあい・いきいきサロンでは、「地域のつながりの希薄化」が33.1%で上位となっている。

地区社協では、「地域のつながりの希薄化」、「移動(買い物、通院等)困難者の支援」がともに51.2%で上位となっている。

まちづくり協議会では、「地域のつながりの希薄化」が70.0%で上位となっている。

老人クラブでは、「地域のつながりの希薄化」が44.9%で上位となっている。

民生児童委員協議会では、「地域のつながりの希薄化」、「認知症の方や認知症予備軍の増加に伴う対応」がともに60.9%となっている。

問9-1 貴団体としてその課題解決のために取り組めることはありますか。また、解決に向けた提案がありましたら、記入してください。

～主な回答～

《ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ》

- 地域行事イベントの連携協力
- 会員同士、地域間での活動（地道な）に参加できるよう心がける。
- 一部の人々だけでなく、地域全体が課題解決に向けて動けるような雰囲気づくりができればいいと思う。
- 地域で活動している団体とつながりを増やしていきたい。
- 地域でのネットワーク再構築へ向けての活動をともに考えること。
- よろず相談受付をして、いろいろな部所へつなげる。
- 地域とつながることにより地域で発生する困り事を知ることができ、その中で当事業所が対応できることがあれば、協力していく。
- 災害時支援について、居住地の自治会とどのようになっているのか知らなかったので、話し合ってみたい。
- 学校、自治会、まちづくり協議会、民生委員さんとの連携や情報を共有することで必要な支援を必要とする家庭に届けられるよう、こども食堂の活動の周知、案内等を継続して行っていく。
- 今までの子育て経験からメンターの活動を行っていきたい。
- つながれる人達と輪を作っていき、包みこんでいくよう心がけたい。
- 障害者に対しての声かけ
- 障害者福祉施設、団体と情報交換し、ボランティアとしてできることを提案していく。

《ふれあい・いきいきサロン》

- 独居高齢者の見守り
- 通じるところから親睦を深め、人と人のつながりを密にすること。
- 年々増加している自治会員（特に若い世帯）が、気軽に参加できる活動（行事等）を継続して実施し、輪を広げていきたい。
- スマホを活用した連絡網の構築と利用
- 高齢者の認知症の悪化等の悩みや心配を、民生委員や自治会役員に相談したり、情報提供を行う。
- 認知症者の正しい理解と、対応（接し方）を皆に受講させたい。
- 避難の方法を具体的に話し合う必要がある。

《地区社協》

- 地区の民生委員と連携し、配食等を通じて見守りや声かけを充実させていきたい。
- 地域の担い手になってくれそうな人を対象に研修を行っていく。
- 自治会等を通して希薄化している住民の横のつながりを積極的に喚起していきたい。
- 助け合いサービス、お助け隊事業等の導入
- 地域行事の復活と参画

《まちづくり協議会》

- 協議会の中で必要なプロジェクトチームを発足させ活動を起こす。
- 行事等を通して、ともに活動してくれる若いスタッフ、リーダーを発掘し、若いスタッフ、リーダーとともに活動することにより、地域とのつながりを深める。
- 日頃からのお付き合いを大切にし、ちょっとしたおせっかいを試してみる。
- 有償ボランティア組織の構築

《老人クラブ》

- 日頃から声をかけあって共存することを心がける。
- 買い物困難者、通院困難者への支援
- 認知症予防は常に頭を使うこと、常に人と交流すること、それを楽しんで行うこと、そんな場を提供すること。
- 大雨による洪水での対策を関係機関と連絡をとり、実行する。

《民生児童委員協議会》

- 日頃の地道な見守り活動で信頼関係を築く。
- 一人暮らしの高齢者の家族（子ども・兄弟・姉妹）等の把握
- 行政との連帯、民生児童委員の活動を町内から広めていく。

6 団体の今後の活動の展開について

問 10 今後、貴団体はどのような活動を行っていきたいと考えていますか。

～主な回答～

《ボランティア団体・障害者団体・母親クラブ》

- 事業を行いながら、同時に人材育成をしたいと思う。
- 活動は困難になってきたので、啓発活動の手助けができればと考えている。
- 町内住民への会の周知をしていきたい。手話と聴覚障害に対する理解を広めていきたいと思う。
- これまで通り、情報収集に力を入れながら、新しい技術等を活用して、重い障害のある方のコミュニケーションや楽しみの向上の一助になるよう活動していきたい。
- 市民の皆様が手話の普及や障害者の方に対する配慮への意識を高めるための講演会を開催したいと思う。
- 共生社会に向けて認知症を予防し、また認知症の方の気持ちを理解し、全ての方が安心して暮らせる明るくやさしい地域づくりを目指している。
- 子ども達の未来のためにできることは何でもしていきたい。
- 子どもの居場所づくり、多世代交流の場づくり
- 子ども食堂だけではなく学習支援、多世代交流、世代間交流

《ふれあい・いきいきサロン》

- ますます高齢化が進行し、役員の引き受け手がない中で、身近な本当に必要な時、生活の安全で安心できる自治会（町内）づくりに努めることだと思う。
- 自主防災組織の構築によって、自治会組織の活性化を図っていく。（若い世代の自治会行事参画を図る。）
- 仲間づくりの場となり、生活に役に立つ情報提供、情報交換の場になるような活動を進めていきたいと思う。
- 近隣同士で助けあえる活動になることを願っている。まちづくり協議会が地域に根づくように、自治会での活動を広めていくようになればと思う。
- 子育て中の母親の友達づくりの場となるようにしたい。
- 小地区だけの活動でなく、自治会で行う企画を考え、提案したい。

《地区社協》

- 小さな地域ではあるが、地域の活性化やつながりを強めるため、地域内の団体・個人の方と情報課題を共有し、連携して集う場（ふるさとまつりや三世代交流の場等）を守っていきたい。
- 高齢化が進む中、地域の方々が明るく元気で楽しく活動できる支援活動を進めていきたい。
- 各種団体を通して、情報の共有を図り、地域住民に対し積極的に対応していきたい。そのためには、行政機関もしっかり応援（支援）していただきたい。
- 地区住民に公民館だよりを通じて、皆さんに活動を知ってもらうよう努力する。
- 各自治体内の課題を整理し、支援体制づくりを進める場の設定（理事会で周知し、総会へ諮る等）が必要
- まだまだ高齢者が多くなると予測されるので、お互いの安否確認を充実させていきたい。

《まちづくり協議会》

- 地域の住民の理解を深め、活発な交流を深めることを考えている。組織の中に多くの若者が参加できるようなことも考えている。
- 地域に根づいた活動を行っていききたい。
- 活力があり、住民の方が住みやすい町づくりのための観光資源の整備や商業施設の充実、ライフラインの充実等
- 地域の少子高齢化に歯止めをかけ、子育て世代に移住してもらえるような明るいまちづくりに貢献していききたい。
- 現在設定している部会において、積極的に意見交換をするとともに、地域の実情に応じた対応をしていききたい。また、住民の方に対して、しっかりした情報提供を行い、状況把握に努めていききたい。

《老人クラブ》

- 入会者を増やし、一層の会員相互の親睦しつつ、健康体操等で健康寿命を延ばす。社会貢献活動にも参加していく。
- 今後はもっと明るい老人クラブを作る必要がある。そのためには、老人クラブが発展するために多くの人が入会するよう努力したい。
- 最大の課題は会員の減少。増員に向けて、広報活動でお知らせしたい。
- 高齢者の親睦を向上させていききたい。
- 地域社会奉仕と会員間の相互の連絡強化
- 65歳以上の高齢者が健康年齢を延ばし、生きがいや地域貢献ができる住みよい地域を構築するための活動を推進していききたい。

《民生児童委員協議会》

- 民児協の中でお互いに困り事等を話し合い、一人で悩むことなく助け合って地域での活動を進めていききたい。
- 町内の皆様への民生児童委員の活動を広める。
- 地域の公会堂や町民館を利用し、懇親会や困り事相談会等を開催し、懇親を深め、信頼感を醸成することが大切
- 民生委員同士のコミュニケーションをとり、横のつながりに気をつけて、新任の民生委員が相談しやすいようにしたい。
- 定例会以外に情報交換会等を行うことにして、困ったことや分からないことを話し合う場を持つとよいと思う。
- 地域住民の実態を把握し、住民同士のつながりを深め、いざという時に協力し合える関係を作れるといいと考える。